

# 福祉作文



中学生の部 最優秀賞

## 今、私たちにできること

北中学校 3年 大倉 優月

私の祖父母は二人で県外に住んでいます。数年前、祖母が病気になりあまり歩くことが出来なくなりました。そのため祖母はあまり元気がなくなり、家にいることが多くなったので、祖母が元気をとりもどすにはどうしたらいいか家族で話し合いました。そこで私たちは、年に数回は会いに行き、電話やメールでのやり取りも以前よりもするように決めました。祖母は「連絡してくれるだけで元気になる」といつも嬉しそうに言ってくれます。また「次に遊びに来るまでには、もっと歩けるようにリハビリがんばるね。」と話していました。

夏休みに入り、祖父母の家に遊びに行きました。祖母は杖がないと歩けなかったのですが、ゆっくりですが歩けるようになっていて驚きました。外出した時、私は祖母の歩くペースに合わせて歩き、手を引いてサポートしました。その時、今まで何にも思わず歩いていた道の段差やお店の入り口の階段が、足の不自由な人には不便だと気づきました。これから高齢化はますます加速します。もっとみんなが暮らしやすい環境づくりが必要だなと感じました。

祖父母の実家や実家の近所は、我が家とは全く違いとても静かです。母は「ここに来ると静かでうらやましい」といつも言います。しかし、祖父母ともに「近所の人

も高齢で近所づきあいもなくなり、毎日話す相手もないし、家にしかないなので寂しい。」と言っていました。私は少し心配になったとともに、祖父母のような世帯はどのくらいあるのか気になり調べてみました。

今、65歳以上の一人暮らしは、昭和55年から比べると約2倍以上増加しています。そして、近所との付き合いがない、健康状態も良くない、会話をほとんどしないなど、社会的に孤立しやすい高齢者は、生きがいを感じなくなる割合が高くなるそうです。高齢者の社会的孤立は、生きがいの低下だけでなく、犯罪や孤立死など社会的に大きな問題を招きます。このような現状を知り、何か私ができることがないか考えてみました。近所にも高齢で一人暮らしの方がいるので、私から積極的に声をかけるようにしようと思いました。また母とも相談し、ごみを出したり、少しの手伝いではありますが、私たちができることをすることに決めました。

一人一人が、少し地域の人と関わるだけでも、孤立は避けられると思います。私たちの心がけ、意識を少し変えることが必要です。家族だけでなく、地域の方とも交流し、社会から一人でも孤立する人をなくせたら、よりみんなが暮らしやすい社会になると思います。



中学生の部 優秀賞

## 「できないこと」

大生院中学校 2年 三村 桜太郎

僕は、人前で話すことや距離のある人と話すことが得意ではありません。頭ではいろいろ考えているけど、どう言おうか、どう答えることがいいのかと考えているとすぐに言葉にすることができません。

僕の親戚に自閉症の子がいます。親戚の集まりの時など、たまにしか会わないけど、小学生の親戚はあまり言葉が出ません。自分の興味があることには進んで近寄りたり触ったりしています。「何がしたいのかな」と思って見ていたけど、その周りの大人たちは「これが欲しいんかね」「これ気になるんやね」とすぐに察して助けたりしていました。しばらくして、その親戚に会った時に単語を話すようになっていました。学校やリハビリを頑張っていると聞きました。何かを言いたいけれどうまく伝えられない子がいれば、行動などから察して理解してあげる必要があると思っていましたが、その子が今後うまく表現できるようにリハビリなどをしてその子自身も努力していることがわかりました。

僕も授業中、とっさに言葉が出ず時間をかけてしまうことがありました。それでも、クラスみんなは話し始めるのを待ってくれます。学校の先生は僕にちゃんと最後まで話すように促します。「早くしてよ」と思うこともあるかもしれないし、僕も「もう無かったことにしてほしい」と思うこともあります。でも、今後、僕は誰かの前で

全く話さず生活することは難しいと思います。だから、できないことを努力し、今より成長できるように頑張りたいと思います。

また、僕は中学の部活ではなくクラブチームでサッカーをしています。いろんな中学の子やコーチがいます。だから、僕の両親はチームになじめるのか心配だけど、いろんな環境に飛び込んでいくのも大切だからと入団の後押しをしてくれました。実際、まだコーチや上級生などとスムーズに話すことはできません。同じ学年のチームメートにもあまり自分から話しかけられません。でも、みんなは僕を受け入れてくれ、話しかけてくれるので、入団時よりはコミュニケーションをとれるようになってきました。

障がいの有無に限らず、多数の人ができていることができない人はいます。その人は、その人なりに努力して成長していくことは必要だと思います。そして、そのためには、周りがその人を支援し温かく見守る姿勢が大切です。この人はこれができないから仕方ないで終わるのではなく、その人ができるように少し高い壁でも周りの人が何人も後押しすれば少しずつ壁の向こうが見えてくると思います。僕が恵まれた環境であるように、世の中の人、全てが公平に支援してもらえよう世界になってほしいです。